

# 「自然体験指導者ブラッシュアップ研修会」

## ★事業の概要★

### 事業のねらい

自然体験活動指導者が実践的交流を図りながら、青少年が安全で安心な体験活動を行えるよう、知識や技術のブラッシュアップを図る。

### 期 日

平成26年1月11日（土）～13日（月）

### 会 場

国立大雪青少年交流の家

### 対 象 者

自然体験活動において、指導員やリーダー等、実際に指導に携わる者（教職員、社会教育関係者、青少年教育施設職員、子ども会育成者、ボランティアリーダー等（18歳以上））

### 参加者数：参加募集人数

22名（全日程参加者19名、部分参加3名）：20名

### 講 師

旭川地方气象台 気象情報官 西 龍治 氏  
NPO 法人北海道雪崩研究会 金村 孔介 氏  
NPO 法人北海道雪崩研究会 松田 昭彦 氏  
国立大雪青少年交流の家職員

### 日 程

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00
1月11日 (土)						受付	開会式	①講義 「冬の天気図 の見方」	②演習 「コミュニケーション ゲーム（スキルアップ 編）」		夕食	③講義・演習 「学校教育における 体験活動の意義」		自由交流 入浴	
1月12日 (日)	さわやかタイム	朝食	④講義・演習 「雪崩リスクを学ぶ」		昼食		④講義・演習 「雪崩リスクを学ぶ」		⑤演習 「自然体験活動 プログラムの ブラッシュアップ」		夕食	⑤演習 「自然体験活動 プログラムの ブラッシュアップ」		自由交流 入浴	
1月13日 (月)	さわやかタイム	朝食	⑥演習 「自然体験活動 プログラムの研究」		昼食		⑦演習 「自然体験活動 プログラムの 評価」	閉会式	解散						

# ★プログラム紹介★



## 「冬の天気図の見方」

北海道の冬の天気について、過去の災害の事例を交えた講義から、冬の天気の特徴や天気図の見方を学んだ。



## 「コミュニケーションゲーム」

参加者が各々のプログラムを提供し合いコミュニケーションゲームについてのブラッシュアップを図った。



## 「学校教育における体験活動の意義」

子供の頃の体験活動の重要性について、「中央教育審議会答申」や「国立青少年教育振興機構」の取組から青少年の現状を理解した。



## 「雪崩リスクを学ぶ」

雪の中での活動時の事故防止を観点に講義を受講し、その後実際に雪の観察や埋没体験などの演習を行った。



## 「自然体験活動プログラムのブラッシュアップ」

2日間の研修内容を生かし、地元美瑛町の小学生をモニターに、2時間の冬の自然体験プログラムを企画・立案した。



## 「自然体験活動プログラムの研究」

地元美瑛町の小学生に「宝探し」「基地づくり」「スノーマウントづくり」のプログラムを提供した。評価に役立てるためのアンケートを行い検証をした。

## 企画・運営のポイント

- 1 天気や雪崩という冬の自然体験活動に必要な知識を身につけることができるプログラムとした。
- 2 ブラッシュアップをテーマに、参加者同士が交流しながら技術を高め合う内容とした。

## 事業を終えて(成果・課題)

- 1 「新しい公共」の管理運営の視点から、広く連携と協働した事業にするために、参加者が実践的交流を図りながらブラッシュアップができることに加え、美瑛町公民館事業ともコラボレーションしたプログラムデザインによって、参加者にとって実践に生かせる内容を提供することができた
- 2 野外での活動は、環境に影響される部分が多いので、余裕を持ったプログラム構成にする必要がある。

## 今後の方向性

次年度は、北海道の体験活動全般を、さらに活性化していくために、国立日高青少年自然の家と合同で研修会を行ない、青少年が安全で安心な体験活動を行える指導者を育成していく。